斎宮調整池の環境に配慮した計画について

Plan of Saigu regulating reservoir considering environmental aspects

八木　正広

yagi　masahiro

西尾　利哉

nisio　tosiya

大原　敏一

oohara　tosiiti

横山　康史

yokoyama　yasufumi

１．はじめに

国営かんがい排水事業宮川用水第二期地区は、三重県の南西部に位置し、宮川を中心とした伊勢平野で伊勢市外６町１村にまたがる稲作を主体とした約 4,700ha に及ぶ地域である。昭和 30 年代後半に施工された幹線水路等は老朽化が進んで、漏水事故も多発するようになり、施設の全面改修が望まれていた。また、営農形態の変化及びほ場整備の進展に伴う単位用水量の増大等により用水不足が生じてきた。このため、本事業では、用水計画を見直すとともに、地区内調整池の新設及び老朽化した用水路の改修を行い農業用水の安定的な確保を図ることとしている。

本事業では地区内調整池として既設のため池である斎宮池と惣田池を含め周辺の地山を掘削し、貯水量 200 万ｍ^3 、満水面積約 30ha の斎宮調整池の建設を計画している。斎宮調整池建設工事は「環境影響評価法」及び「三重県環境影響評価条例」の対象事業には該当しないが、調整池の貯水面積が大きく、調整池敷きの掘削に相当な面積の土地改変を伴うこと、また、里山の生態系が形成され多種多様な生物が生息していること等により、自然環境の保全に配慮して工事を実施する観点から、自主的な環境影響評価（自主アセス）を実施した。斎宮調整池建設工事の実施にあたり、自主アセスによる環境に配慮した工事計画について報告するものである。

２．環境影響評価の実施

環境影響評価の手続きは三重県環境影響評価条例に準拠し、環境影響評価の実施にあたり、環境影響評価の項目や手法を記載した方法書を作成し、方法書に基づき現地調査を実施した。現地調査結果に基づき、事業を実施した場合、現在の環境がどのように変化するかを予測し、また、事業による環境への影響がどの程度となるかを評価し、影響を少なくするための環境保全措置を検討し、準備書、評価書を作成することとした。表－１に環境の現況並びに及ぼす影響の予測及び評価の項目を示す。

方法書、準備書、評価書の作成に当たっては、専門的な見地から検討を行うために、学識経験者等による斎宮調整池環境影響評価検討委員会を平成 11 年度に設置し、指導、助言を得て進めた。

宮川用水第二期農業水利事業所　　　環境影響評価

表－１　環境の現況並びに及ぼす影響の予測及び評価の項目

①大気質、②振動、③騒音、④水質、⑤水底の底質、⑥地下水の水質及び水位、⑦地形・地質、⑧土壌、⑨陸生動物、⑩陸生植物、⑪水生生物、⑫生態系、⑬人と自然との触れ合いの活動の場、⑭景観、⑮廃棄物

３．環境保全措置

環境への影響を回避又は低減あるいは代償を図るための主な環境保全措置を表－２に示す。

表－２　環境保全措置

①工事用進入路の選定、②工事用車両による騒音、振動等の発生抑制、③工事車両の速度制限、④場内工事用道路の仮舗装、⑤裸地の敷き均し及び建設機械等稼働箇所のへの散水、⑥低騒音型建設機械の導入、⑦斎宮調整池の水量調整、⑧沈砂地の設置、⑨斎宮調整池堤防断面等の排水、⑩法面等の緑化、⑪法面の出現の低減、⑫斎宮池小池の保全、⑬「中の島」の保全、⑭浅瀬の保全・創出、⑮重要な種の移植、⑯生物に配慮した側溝の採用、⑰建設発生土の再利用

４．斎宮池小池の保全

斎宮調整池建設工事の環境保全措置の内、斎宮池と連絡している斎宮池小池について次のように計画した。

（１）現況

斎宮池小池は、コナラを中心として樹林地に囲まれており、水域には、ヨシ、ハンノキ等の湿性植物が発達している。水深は水際から緩やかに深くなっており、植生は陸域から連続し多様である。このような環境の中では、浅瀬を生活基盤とする多様な動植物が生息可能と推察される。

（２）斎宮池小池の保全

斎宮調整池の工事実施に伴い斎宮池及び惣田池内の浅瀬が減少することから、その回避・低減措置として最も効果的な斎宮池小池を掘削区域から除外し、そのまま保全することとする。

（３）斎宮池小池の利用

斎宮調整池との接続箇所については斎宮池小池の貯水位が安定確保できるような構造に整備する計画である。また、斎宮池小池を保全することにより、重要な種の移転先として利用することが可能となる。

５．まとめ

現況の調査を実施する中で、陸生動物、陸生植物、水生生物について多種多様な動植物が生息していることが確認された。斎宮調整池建設工事に当たり、自主的に環境影響評価を実施し、こうした動植物の生息を把握しつつ環境保全措置の中の１手法として、既設のため池の一部を斎宮池小池として存置する環境保全措置を行う計画とした。このように周辺環境に配慮した環境保全措置を実施し、今後、斎宮調整池建設工事を進めて行くこととしたい。また、今回のような環境保全措置を行うことにより斎宮池小池は多種多様な動植物が生息するような空間として存続するよう期待するものである。